

光葉ワーキングクラブメールマガジン



<2022年 3月号>

177号 2022.03.01 配信

東京でも数回の積雪を経験した、寒い冬でした。ようやく、草木の芽吹きに春を感じるようになりました。

3月は一つの区切りの時。成し遂げた達成感と共に、4月からまた新たなことに挑戦する方も多いことでしょう。旧友や新しく出会う人たちと、1日も早くマスクなしで会話を楽しめる日が訪れることを、願うばかりです。

■同窓会だより

◆光葉同窓会ワーキング春祭り

『食』関連ネットワーク講演会（ハイブリッド形式）

光葉同窓会ワーキングネットワーク委員会

「食でつながる人々の環～若い世代（高校生）
が担い手となる食育推進～」

日時：2022年 2月19日（土）13:30～15:00

講師：會田友紀氏（花咲徳栄高等学校食育実践科科长補佐）
2015年大学院人間教育学専攻修了

文部科学省事業「スーパー食育スクール指定校」としての取り組みを紹介されました。校内に留まらず、幼・小・中学生との交流、地域、大学、企業とのコラボなど、「食」をツールにして「人々の環」を広げて活動する生徒たち。その中で、知識や技術以外に、感性や礼儀、コミュニケーション能力、自主性が育まれていった、とのこと。



担当者としてのご苦勞を語ることなく、高校生の活動の場を広げ、成長する様子を何よりも大切にされていました。

高校生たちを「自らが主体の食へ、少しずつ自立させていきたい」という今後のご自身の課題に、若い世代の力をさらに引き出し、食の大切さを次世代へもつなげていきたいという熱い思いが伝わる講演でした。

（参加者 45 名）

<後藤 文子>

■学園だより

◆令和3年度卒業式 および 光葉同窓会入会式

日時：3月16日（水）開式 9:30 人間文化学部・グローバルビジネス学部・人間社会学部
開式 13:30 大学院・国際学部・生活科学部

◆昭和女子大学の学園イメージソング「For Our Dreams」について

メルマガ2月号でご紹介した、学園イメージソングが、2月10日、日本経済新聞社主催の「第3回 NIKKEI 全国社歌コンテスト」で応募142件の中から選ばれ、見事優勝しました。

決勝戦の映像は、YouTube でどなたでもご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=6AKmEJ8od4c>

学園イメージソング「For Our Dreams」動画

<https://youtu.be/9vW6IP1w9Zk>

■広げよう光の葉

浜本 通恵 さん

徳島県支部 1968年 生活科学科卒

「私の料理歴史」

私は昭和20年5月の終戦直前に誕生しました。乳幼児期は食料不足で、体力がなく、親に心配をかけて成長しました。大学進学は母の「体力がない」の一言が決めてとなり、生活科学科で栄養学を学ぶことになりました。学生時代は「親の心子知らず」で友人と青春を謳歌しました。卒業後は地元高校講師、企業内高校に勤めました。結婚後、子供誕生で一時期家庭に入った後、徳島県青少年センター（参加者25歳まで、男女の文化運動活動拠点）が新設され、その料理講座を担当しました。献立内容は和洋中の基本で組み、クールの終わりにミニパーティー料理を作って交流し、またセンターの行事でバザーを運営し、それにも若人と携わり、有志達が自主グループを結成し、今も繋がり、大きな財産になりました。数年後、徳島市中央公民館が市民講座を開設、昭和60年前後は徳島もカルチャーブームで、料理教室も健康志向が強く、受講は抽選で行うなど人気が高く、内容は家庭で作れるものに、新材料、流行りの料理を取り入れる工夫をしました。新たに熱心な受講生向けに成人病予防クラスを開き、生活習慣病予防食を作りました。徳島県は糖尿病患者数が多いという背景がありました。徳島県教育委員会の郷土文化婦人学級では郷土伝承料理、特産物利用料理を作り、一年間の終了時には受講者が食器や盛り付けを工夫して展示発表会をするなど力を入れました。それが影響したのか、地元のテレビ局出演、デパート展示、野外での千人シチュー等々教室外の活動にも参加協力しました。また、地元NHKの「ホットチャンネル」番組で旬の食材及び料理も紹介し、四国放送テレビでは材料費50円で作る「50円の料理」の生放送も担当しました。安価が受けて好評を博し、本の発刊となりました。次に100円料理に移行し、その後、旬の食材へと変わっていきませんが10年あまりかかわりました。なかでも野草を使つての50円弁当、スタヂジャム、わかめうどん等は思い出に残るものでした。20年前、徳島市がシニアの健康増進「ふれあい健康館」を開設し、そこでも家庭料理中心の教室を担当しました。男性が1名位参加しましたが、女性と比べ技量に差があり、孤立したので、男性料理教室を開き、一から指導しました。子供を教えるより頑なで想像外の事も起こりましたが、継続の成果は現れ、今では鰹のたたきやケーキもできるようになっております。男女共同参画は家庭でも実践されているようです。最近、後輩に教室を引き継ぎ、コロナ禍で休んだ時もありましたが、試食せず、弁当箱で持ち帰るなどして続けているようです。

大学で学んだ知識が大いに役立ち、実践の場で生かすことができました。母校の堅実な指導の賜物と感謝しております。同窓会支部長を引き受けたとき、支部長、副支部長の外に新役員もおいで、支部同窓会開催運営がうまくいく様、役割分担を明確にしました。その始動を見届けて、新支部長へと交代しました。今後の活動を期待しております。

【End】